

No. 6

2024/2/27

小野友道の

お節介な戯言

手袋—ラテックスアレルギー



ラテックス（生ゴム）製手袋の出現は無菌的手術の革命的進歩を来たした。1981年からのエイズの登場でアメリカではその需要は驚くほど増加した。中には需要が間に合わず中国などからも輸入された。そんな中、ラテックス手袋について1992年厚生省（当時）は「医療用具安全性情報」でFDAからの「手術用手袋等天然ゴム製医療用具によるアナフィラキシー」を報告した。天然ゴムはもちろんラテックスのことである。その情報には具体的に3例の症例が挙げられていた。その1例は「48歳の看護師で手湿疹、鼻炎、ぜんそくの既往あり。鼻のポリープ切除時に上半身に蕁麻疹が生じ、呼吸困難に陥った。仕事でゴム手袋着用時、局所のかゆみと蕁麻疹が生じていた。時がたつにつれて全身の蕁麻疹、血管浮腫、鼻炎さらに気管支痙攣をきたした。またコンドームを用いた性交後にアナフィラキシーを来した事がある。」といった患者であった。まだ日本では全く報告のなかった時期である。この報告の後日本でも同様の報告がなされ始めた。そのうち手袋を装着しやすいように手にまぶして使われていた粉末（コーンスターチ）にラテックスのアレルゲンが付着してそれでアナフィラキシーを起こすことも知られてきた。日本でもあたふたと手袋、コンドームともラテックス製でないものに代わっていった。その他のラテックスを使用している医療用製品からも代替製品が登場してきた。こうして多くの医療施設の手術場から手袋を始めラテックス含有用品が消えていった。

ところで、本院ではなおラテックス手袋が置いてあるようで、スタッフで確認し、変更を含めて考えてほしい。

なお老婆（爺）心ながら手袋で手にぶつぶつと湿疹病変を生じるのは、ラテックスを加工する際の硫化物などによるカブレ（接触皮膚炎）であり、アナフィラキシーを心配するのはあくまでも蕁麻疹反応である。

次回アナフィラキシーについての戯言を述べてみたい。